

調査の概要

調査の目的

中国の北京、韓国のソウル、それに日本の東京は、3ヶ国の首都である。それぞれの小学4・5・6年生を対象にする調査は、これまでに実施されたことはない。

北京の子どもたちは、勉強漬けで大変な毎日を送っている、と伝え聞く。またソウルの子どもたちも、日本以上に激しい受験勉強を戦っているという。なにしろ、親の厳しさは、とても日本の比ではないとも言われている。

もっとも日本の小学生たちも例外ではないらしい。小学生たちは、とても忙しいといわれている。子どもが忙しいとは、どんなことなのか、大人にはよく分からないものがある。子どもの忙しさは、なんとなく勉強をめぐるのことに想像できるものの、不透明である。

次の時代を引き継ぐ子どもたちの日常生活を掴んでおくことは、大人たちの責任だろう。やがてどんな社会になるのか、どんな子どもに育てるかは、基本的な生活習慣がはっきりしないため、調査する必要がある。

子どもたちは、大きくなったら、どんな人間になりたいと思っているのか。仲良しの友達がいるのか。学校外ではどれほど勉強しているのか。放課後や休みの時間は何をしているのか。

日本では、親と先生の権威がともに低下したといわれている。親と先生の関係はどうか。頑張ろうという気持ちがどれほどあるのか。物事に対する「やる気」はどうか。親のしつけは、時代とともに変わっているのか。しつけの理念というものがあるのだろうか。食べるに困らない時代のしつけは、どんな目的があるのか。

こういったことを想像してみると、不透明さが次第に膨らんでくる。

まず、生活習慣の調査からはじめねばならない。起床時間、就寝時間、食事や生活習慣、親のしつけ、家事の手伝いなど子どもたちの日常生活の実態を把握するのはこの調査の目的である。

調査内容

- ・生活習慣（起床・就寝時間、日常生活習慣、食事）
- ・登校と下校（登下校時間、登下校同伴、遅刻の有無）
- ・友達（仲良しの友達の有無、好きな友達）
- ・放課後や休日の行動
- ・なりたい人間
- ・親のしつけ、家の手伝い
- ・礼儀作法

調査方法

	東 京	北 京	ソウル
調査時期	2006年10～11月	2006年10月	2006年10～11月
調査地域	荒川区、北区、杉並区、渋谷区、目黒区 計16校	海淀区、豊台区、西城区、宣武区、通州区、石景山区 計18校	中浪区 東大門区 麻浦区 西大門区 永登浦区 衿川区 道峰区 松坡区 江東区 瑞草区 城東区 江北区 種路区 陽川区 銅雀区 城北区 中区 計17校
調査対象	小学4・5・6年生	小学4・5・6年生	小学4・5・6年生
調査方法	集団質問紙法	集団質問紙法	集団質問紙法
抽出したサンプルの数	1576票	1553票	2120票